



写真1 枯山水と清泉池と太鼓橋

近隣散策

ホテルニューオータニ(東京) 日本庭園

ホテルニューオータニの敷地にある約4万㎡の日本庭園は、400年余りの歴史を有し、東京名園の1つに数えられています。

江戸時代初期、この地には加藤清正の下屋敷がありました。そして二代・忠広の時に加藤家が改易になったのを機に、この屋敷は井伊家へと引き継がれ、幕末まで中屋敷として使用されました。

第二次大戦後、外国人の手に渡ろうとしたのを、ホテルニューオータニ創業者である大谷米太郎が、“この由緒ある土地を外国に売り渡すのは惜しい”として買い取って自邸とし、荒れ果てた庭を大谷米太郎自ら陣頭指揮して改修しました。大谷米太郎は政府の依頼に応じて、東京オリンピックの開催に向けて外国人来訪客の受け入れ施設確保のため、1964年(昭和39年)にこの地に都内屈指の大型ホテルとなるホテルニューオータニを建設。日本庭園はホテルニューオータニの一部となりました。

四季折々の花々が咲き乱れ、樹木が濃い木陰をつくる、池泉回遊式と呼ばれる庭園になっており、清泉池(せいせんいけ)を中心に、佐渡島の金山より運ばれた赤褐色の独特色彩から赤玉石(あかだまいし)と呼ばれている高価な庭石や、枯山水(かれさんすい)、太鼓橋(たいこばし)、山茶花荘(さざんかそう)等見どころが多くあります。

近年では、開業50周年を記念してライトアップもスタート。環境に配慮したLEDを使用し風情のあるライティングで、400年の歴史を有する日本庭園を四季折々、「光のおもてなし」で演出しています。

参考文献

ホテルニューオータニ(東京) 公式サイト

URL <https://www.newotani.co.jp/tokyo/>



写真2 赤玉石

